# NeighborART
# NeighborMUSEUM
# 「練馬区立美術館」

瀬戸内海に浮かぶ人口３０００人ほどの小島・「直島」。
国内外から年間約 72 万人もの観光客が押し寄せる「現代アートの聖地」となった。
「金沢 21 世紀美術館」。
市民や地元の工芸家を巻き込む多くのイベントを打ち出し、誰からも愛される世界的人気美術館に成長した。
今度は、練馬ならではの、いったいどんな「物語」を紡げるだろうか。

―― 練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会委員長　練馬区立美術館長　秋元雄史

**「本物」のアートと出会い、**
**そこで出会った者同士が新たな活動へと発展する。**
**アートを軸とした新たなコミュニティが創られ、**
**まちづくりに広がる「練馬ならでは」の美術館を目指す――「３つのコンセプト・ストーリー」。**

## 「まちと一体となった美術館」

電車が中村橋の駅に近づくだけで、
他の駅とは違う独特の空気が漂うのを感じる。
ホームに降り立つとその理由がわかるだろう。
色とりどりのアートが迎えてくれる。
いくつかのインスタレーションが目に飛び込んでくる。
改札を出た広場にはモニュメントが、駅から美術館に向かう道、商店街にもアートが溢れ、
誰もがウキウキする気持ちを抑えきれないだろう。
ふと気がつくと自分はいつの間にか美術館の中にいた。
「あれ？　どこからが美術館だっけ？」
そう、ここは「まちと一体となった美術館」なのだ。

## 「本物のアートに出会える美術館」

散歩する日常の中にアートがある。
日常の何気ない時間の中でできるアート体験。
ここには、多様なアクセスの方法がある。
図書館から入ってもいい。広場から入ってもいいだろう。
「美術ってこんなに敷居の低いものだったんだ」
そしてこんなことも感じるだろう。
「一枚の絵が持つ、作品がもつ感動だけじゃない。
背景にある物語を、本物のアートの持つ豊さそのものを
ここで感じることができる」

## 「併設の図書館と融合する美術館」

この街には日常生活の中に「非日常」が混ざり合っている。
商店街にもアートが混在し、互いに不思議な化学変化を生み出している。
そして、この美術館は図書館とも混じり合う。
“知性”の拠点である図書館と“感性”を磨く場である美術館が、
空間的にも機能的にも融合されている。
区民や利用者は、美術館と図書館が一つになった空間で
文化的なリソースを使い、余暇を楽しんだり、様々なことを学んだりできる。
さらにそこには、「広場空間」も繋がり、気がついたら外のベンチで本を読んでいる自分を発見するだろう。